

# 報告

## 第15回 北海道医療対策協議会

副会長 宮本 慎一

北海道では、本道における地域医療の充実・確保に向け、平成16年度に医療対策協議会を設置し、医師確保をめぐる諸問題の対応について協議してきた。

第15回協議会は、当初3月18日に開催される予定であったが、東北地方太平洋沖地震の影響により延期され、5月24日に札幌市で開催された。会長の高橋知事の代理として多田副知事の挨拶の後、平成22年度の医師派遣の調整結果、地域枠卒業医師の義務年限中の配置先に関する考え方などについて報告が行われた。



### 1. 医師派遣（紹介）調整について

医師派遣（紹介）連絡調整分科会の高橋座長（留萌市長）から、22年度は16病院（延べ17病院）22名の派遣依頼に対して、確保できたのは7病院8名（そのうち2名が独自確保）、本年度は新規24病院37名の依頼に対し、6病院6名となり継続分と合わせ17病院22名に対応しているとの報告がなされた。

### 2. 地域枠卒業医師の義務年限中の配置について

地域医療を担う医師養成検討分科会の北座長（奈井江町長）から、平成20年に制定された「北海道医師養成確保奨学金等貸付条例」に基づく奨学金の貸付について、札幌医科大学・旭川医科大学の両大学で91名に貸し付けしていること、義務年限中の配置先の考え方についての説明が行われた。

9年間の義務年限中、臨床を指向する医師は、初期臨床研修終了後、3～5年目と8～9年目の合計5年間、知事が指定する道内の公的医療機関に配置され、6～7年目は道内の臨床研修病院等で卒業後再研修を行う。配置先となる指定医療機関は、原則人口10万人あたりの医師数が全国平均を下回る市町村に所在し、かつ医療機関の規模が一般病床200床未満の公的医療機関とする考え方である。対象は病院90、有床診療所30、無床診療所47の合計167医療機関となり、3年目のへき地医療研修においては、医師の勤務環境や診療能力の向上等に配慮し、指定医療機関以外に札幌市および旭川市を除く臨床研修病院等27施設を加えるということであった。

北海道においては、弾力的な対応と安定的な確保

に向けた協議を行い決定する考えであり、地域枠から地域の医療機関に勤務する流れは切り札的な取り組みとなるので、札幌医大、旭川医大の支援なくしては成り立たないことを強調し、協力を要請した。

医育大学からは、学生が将来どのような病院に配置されるか不安を抱えているので、できるだけ早期の情報提供と常時コンタクトのとれるサポート体制を整備するよう要望があった。

### 3. 新たな地域医療再生計画について

三次医療圏を単位に基本額15億円が交付される新たな地域医療再生臨時特例交付金の概要と、既存の地域医療再生計画の全道事業、南檜山圏域、北網圏域の進捗状況について概要説明が行われた。



その後、全体を通しての意見交換が行われた。地方・地域センター病院協議会の佐古会長（名寄市立総合病院長）からは、一部のセンター病院では、医師不足のため地域への医師派遣はもとより、救急患者の受け入れもままならない等、本来果たすべき機能を十分に果たしていない状況にあり、マンパワー不足の問題は病院単独での力にも限界があるので三医育大学に対し、さらなる支援協力を求めた。また、現在進められている地域医療指導医派遣システム推進事業が広がれば、センター病院に勤務する医師のインセンティブにつながると述べられた。

続いて、北海道大学病院の福田病院長より、地域医療指導医派遣システムは、大学が助教として雇用して1年目は大学で研修を行い、2年間地方の中核病院に勤務して指導医として研修を担当し、その後大学に戻り2年間教育に当たるというシステムで、現在8名が登録しており、順調に進んでいると報告があった。

自治体の首長からは、医師不足や偏在の影響は地方ではさらに深刻となっているにもかかわらず、新医師臨床研修制度は都市部に集中する構図となっているので、地域の現状を国に訴えるべきであると、北海道の強い姿勢を望む意見が寄せられた。これに対し、多田副知事は、医師が不足していることは共通認識していながらも具体的な議論の土台づくりが不十分であるので、そこを整理しながら協議を進めていきたいとの考えを示した。

長瀬会長は、それぞれの立場から様々な意見があるため、すべてを満足させるような施策を見いだすことは困難であり、また、北海道の広域性も国になかなか理解してもらえないが、北海道の地域医療確保のため大学、医療関係団体、行政等が一丸となって、乗り越えて行かなければならない課題であると発言した。

北海道では、様々な医師確保対策を講じているが特定診療科の医師不足や偏在は改善の方向に向っていない。医療提供体制の効率化は、医療関係者ばかりでなく地域住民とともに考え、地域ごとに最善の方策を見いだすことが不可欠である。関係各位にご協力をいただき、解決の道を模索して参りたい。